

週日の説教

金 大烈 神父 2009年11月14日(土)

《沈黙、それは祈りで満たされた世界》

信仰の生活をする中で、「これは本当に美しい」と思うことがいろいろあると思います。その中で、信者ならばみんな「美しい」と感じなければならないことがあります。それは、『祈る姿』です。私たちは、祈らなければならないことをよく知っています。今日の福音(ルカ 18・1 8)の中でも、イエス様は、「絶えず祈らなければならない」ことを教えられています。しかし、司牧者の目で、「私たちがどのくらい喜びを持ち、面白さを感じながら祈っているか」を見てみますと、そんなにたくさんの人々が祈りの味をわかっているようには見えません。もちろん一生懸命に祈っている人もいます。けれども、残念だとは思いますが、ほとんどの人は祈りの味を分からずに信仰の生活をしているように見えます。

さあ、今日の第一朗読(知恵 18・14 16、19・6 9)は、知恵の書が読まれましたね。その一番始めに出てきた言葉は何でしょうか。『沈黙』ですね。ある詩人は、「『沈黙』というのは、言語でいっぱい満たされた世界を意味する。」と言っています。ふつう私たちは、『沈黙』といえば音を出さないこと、言葉を口にしないことだと思っています。しかしこの詩人は、本当の『沈黙』というのは、「言語でいっぱい満たされている世界である。」という表現をしました。

私は、今日の福音を読んで『沈黙』と『祈り』には関係があると思いました。たとえば、『沈黙』を楽しめる人は、『祈り』も結構楽しめると思います。信者の立場で考えると、『沈黙』は『祈り』で満たされている世界になると私は思うのです。「『祈り』で満たされている世界」それが沈黙です。ただ口を閉ざし、話すことをやめ、いろいろ複雑な考えの世界に陥るのが沈黙の世界ではありません。

霊性の学者達はいつも、「沈黙の時間を持ちなさい」と言っています。それは、「祈りの時間を持ちなさい」という意味になります。祈りの時間を持つことで、自分を正しく見ることができるようからです。自分の姿を正しく見ることができれば、自然に神様に頼る心が生じます。そして客観的に、「神様が自分に何をおっしゃっているのか。何を望んでいらっしゃるのか。」をある程度感じられるからだだと思います。

皆様、本当に喜んで祈らなければならないと思います。時々、この教会の中で嬉しくないことが起こった時、私はいつも自分の責任だと思い、反省をしています。それは、「私の祈りが足りなかった」と思う気持ちです。そしてそれは、事実だと思います。実際にどの小教区でも司祭が祈る姿を保つことができれば、その小教区は上手く行きます。私はそれを確信しています。長い歴史のカトリック司祭達の証言やそのような生き方をしてきた多くの先輩司祭達の教えを通してわかります。また、自分自身でもよく体験をしています。私がまず祈らないから共同体の家族も祈る味を分からないのだろう、という反省をよくしています。

さあ、皆様祈ってください。私たちにとって本当に一番素晴らしい武器、正しく生きるために必要なことは、まず『祈ること』です。それをいつも意識していただきたいと思います。祈らないで、「神様を知っています」「神様のみ旨を分かっています」「こういうことが正しいことです」と言うのは、間違えです。信仰の実りは、祈らなければ絶対に感じられません。ですから、どんな奉仕をするときにも、どんな施しをするときにも、その前には必ず祈りから始める、そういう心を身につけていただきたいと思います。

ありがとうございました。